



アトリエ移設1周年記念展

岡田三郎助の 花物語

— 万花描く辻永とともに —

2019.3.16sat → 5.6mon

会 場：佐賀県立美術館

4号展示室・OKADA-ROOM・岡田三郎助アトリエ

開館時間：9：30～18：00

休 館 日：月曜日〔ただし4月29日・5月6日は開館〕

観 覧 料：無料

主 催：佐賀県立美術館

 佐賀県立美術館
SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

上：舟禮廊 岡田三郎助 1933年（個人蔵）
下：少女読書 岡田三郎助 1924年（佐賀県立美術館蔵）

アトリエ移設1周年記念展

岡田三郎助の花物語

— 万花描く辻永とともに —

2019.3.16sat → 5.6mon

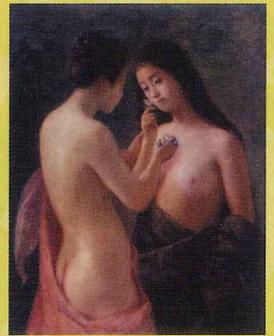
花とアトリエをめぐる、二人の画家の物語。

明治～昭和初期の洋画壇を牽引した画家・岡田三郎助(1869-1939)は、明治39年末に文筆家の小山内八千代と結婚したことを機に、現在の東京都渋谷区恵比寿にアトリエを構えました。作品制作や後進指導の場であったアトリエは、岡田没後、親しい画家の辻永(つじ・ひさし、1884-1974)に引き継がれ、長く守られたのち、平成30年4月、岡田の故郷である佐賀県へと移設されました。本展では、アトリエ移設1周年を記念し、岡田三郎助と辻永という、アトリエに暮らした2人の画家を紹介します。

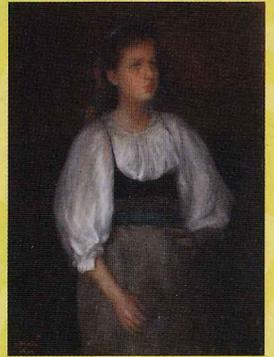
岡田と辻がともに愛したものは「花」でした。岡田三郎助は、フランスでラファエル・コランの薫陶を受け、作品に花(植物)を描くようになりました。それらは、背景の一部、あるいは着物の模様でありながら、主題である女性の性質や、背景の物語を暗示する役割も担っていました。また、薔薇などを描いた静物画も、岡田の画業において重要な位置を占めています。辻永も、花とゆかり深い画家でした。彼は生涯を通じて数万点に及ぶ植物画を描き、それらは大著『萬花図鑑』『萬花譜』として結実しました。連れ立って写生旅行に出かけることも多かった岡田と辻は、花・植物への関心を共有し、それぞれの作品に反映させていったと考えられています。岡田と辻の作品にあらわれた「花」をめぐる物語は、近代洋画史において花の果たした役割を明らかにすることでしょう。



水辺 岡田三郎助
1937年(個人蔵)



花をもてる裸婦(花の香り) 岡田三郎助
1903年(公益財団法人ウッドワン美術館)



イタリアの少女 岡田三郎助
1901年(公益財団法人大原美術館)



花園 岡田三郎助
1920年(個人蔵)

Okada Saburotsugu

EVENT ▶ 関連イベント

博物館・美術館セミナー

花を愛した2人の画家 —岡田三郎助と辻永—

日時：3月23日(土) 13時30分～15時

会場：佐賀県立美術館 2階画廊

講師：岩永亜季(佐賀県立美術館学芸員)

参加費無料 予約不要

ギャラリートーク

日時：展覧会会期中 毎週金曜日 14時～15時

会場：佐賀県立美術館 4号展示室及びOKADA-ROOM

講師：当館学芸員

参加費無料 予約不要

ドライフラワーとバラの展示

日時：展覧会会期中 9時30分～18時

会場：岡田三郎助アトリエ(アトリエ)

観覧無料

アトリエマルシェ

日時：展覧会会期中 毎週日曜日(3月17日、5月5日を除く) 11時～17時

会場：岡田三郎助アトリエ(女子洋画研究所)

i 岡田三郎助アトリエでは、他にもワークショップ等を企画中!
決定次第、佐賀県立美術館HPでお知らせします。

Tsuji Hisashi



夾竹桃と山羊 辻永
1913年(茨城県近代美術館)



春 辻永
1938年(茨城県近代美術館)



にしきのふだう 辻永
1907年(水戸市立博物館)

佐賀県立美術館
SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

佐賀市内 1-15-23 ☎0952-24-3947

佐賀県立美術館

※駐車場の数には限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください。(佐賀市営バス「博物館前」又は「サガテレビ前」下車)



この展覧会は「ふるさと納税」を活用しています